

1 学校運営の中期目標

現状と課題

鳴野小学校の子どもたちは、優しく素直な子どもが多いが、積極性にやや欠け、受動的な子どもが多いのが現状である。学力は、「小学校学力経年調査」では全学年、全教科で大阪市平均を上回り、「全国学力・学習状況調査」等においても全国平均を上回った。また、運動面では、日常的に運動している子とそうでない子との差があることが課題であるが、全国体力・運動能力テストにおいて、調査対象学年は男子が大阪市・全国平均並み、女子は大阪市・全国を大きく上回る結果となった。家庭生活においては、中・高学年において早寝ができず、十分な睡眠時間が確保されていない子どもも多い。このような課題に対して、これまで、学習面においては、国語科・算数科・体育科で、交流活動に重点を置いた授業を研究実践してきた。これにより、子どもたちは、学び合う良さを実感しつつある。また、ピアサポート活動を取り入れた取り組みにより、友達を思いやる気持ちや自尊感情が育ってきた。あわせて、あいさつ運動や基本的な生活習慣確立のための取り組みも行い、成果が見えつつある。

この成果を踏まえ、本年度は以下の点に重点を置いた取り組みを進めていく。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ・「学校のきまり」を守り、自主的・自律的に行動できる態度を育てる。
- ・「あいさつ」をはじめとしたコミュニケーションが大事であることを理解させ、それによる自己有用感を育む。
- ・人権尊重の精神をはぐくみ、自己有用感を感じることでできる子どもを育てる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学力の向上

- ・国語科・算数科において交流活動を効果的に取り入れ、ともに学び合い高め合う良さを実感させる。また、学習することの充実感や達成感を味わわせるとともに、基礎・基本を明確にした教材研究を行い、基礎学力を定着させる。

健康や体力を保持増進する力の育成

- ・年間を通じて、基礎・基本を明確にした授業研究に取り組み、子どもたちが運動することの楽しさを味わい意欲的に運動することにより、体力の向上につなげるようにする。
- ・早寝早起き等の基本的な生活習慣の確立や、よい食習慣を身につけることにより、健康の保持増進を図る。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ①令和3年度の学校アンケートにおける「きまりを守って、正しく行動している」の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合を、平成29年度より向上させる。
- ②令和3年度の学校アンケートで「自分にはよいところがある」の項目で「そう思う」「どちらかというそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。
- ③令和3年度の学校アンケートで「あいさつをしっかりとっている」の項目で、「そう思う」「どちらかというそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ①令和3年度の全国学力・学習状況調査における「授業がよくわかる」の項目で、国語・算数とも「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」割合を、全国平均を上回るようにする。
- ②令和3年度の全国学力・学習状況調査における「国語・算数の勉強は好きだ」の項目で「当てはまる」「どちらかという当てはまる」割合が、全国平均を上回るようにする。
- ③令和3年度の学校アンケートで「日ごろ、運動をよくしている」の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」割合を、80%以上にする。
- ④令和3年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、80%以上に維持する。
- ⑤令和3年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の75%以上を維持する。

2 中期目標の達成に向けた 年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

＜全市共通目標＞

- ①令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。
- ②令和2年度の小学校経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。
- ③令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ④令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童数の割合を前年度より減少させる。

＜学校独自目標＞

- ①令和2年度の学校アンケートで「自分にはよいところがある」の項目で「そう思う」「どちらかという」とそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。（H29 76.2%、H30 78.7%、R1 75.9%）
- ②令和2年度の学校アンケートで「あいさつをしっかりとっている」の項目で、「そう思う」「どちらかという」とそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。
（H29 90.3%、H30 87.4%、R1 84.8%）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

＜全市共通目標＞

- ① 令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ② 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ③ 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ④ 令和2年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。（R1 4年 74.5% 5年 78.9% 6年 84.3%）
- ⑤ 体力向上に向けて、かけ足週間や、かけ足大会の取り組みを行い、令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、20mシャトルランの記録を大阪市平均・全国平均を1ポイント以上上回るようにする。（※体力テスト中止のため、かけあし週間後に調査該当学年で20mシャトルランを計測し、大阪市平均・全国平均のそれぞれ過去3年間の平均値と比較する。）

＜学校独自目標＞

- ① 令和2年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、80%以上で維持する。（昨年度 89.4%）
- ② 令和2年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の75%以上を維持する。（昨年度 82.7%）

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は緊急事態宣言発令による学校休業から始まり、分散登校を経て、6月半ばに通常の登校を開始した。登校再開後も音楽の歌唱指導や体育の水泳学習などで様々な制限があり、例年通りの学習活動を再開できなかった。しかし、そのような中でも、教職員全員でできることを模索し、子どもたちの学びや成長につながる取り組みを進めてきた。運動会は3学年ずつ、2部制にして実施することで、保護者の分散と児童の演技披露を両立させることができた。学習参観においても、学級ごとに1時間ずつずらして実施することで、保護者の密を避けて安全に開催することができた。いずれも、過去に例のない手段で行ったが、この先例にとらわれない、新たな発想で1年間を乗り越えたことが鳴野小学校教職員の大きな成果であった。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

昨年同様、子どもサポート委員会を毎月開催してきたが、今年度からは大阪市子どもサポートネット事業の下、スクールカウンセラーなど外部機関からも参加していただき、情報共有を進めるとともに、専門的な見解を聞いて児童の福祉的支援策を検討することができた。また、学校ホームページを活用し、家庭や地域が必要とする情報を発信することで、自粛期間中であっても安心できる学校づくりを進めることができた。

次年度は中期計画の最終年であるが、現時点では「自分にはよいところがある」「あいさつをしっかりとっている」の項目において、目標を達成できていない。これらの項目は「わからない」の回答が増えている。児童の実態が低下しているというより、自己評価・自己分析において断定的な表現を避ける児童が増えている。自尊感情を育てる、あいさつを活発にすることを目指すだけでなく、児童の自分を見つめ捉える力も育んでいきたい。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学力の向上

年間の授業時数は減ったが、その中で履修内容を終えられるように計画的に進めたため、休業による大きな影響は見られなかった。小学校学力経年調査においては、3～6年のいずれの学年も4教科・5教科の標準化得点（大阪市平均を100点とする）で100点を上回ることができた。特に、4年生はすべての教科の標準化得点が103点を超えた。その要因としては、自己分析・自主学習・学力の底上げが考えられる。まずは、自分が分かっている部分、分かっていない部分を判別し、どのような学習が必要か、児童が自己分析できるようにする。さらに、その分析によって必要と考えた学習を自主学習で進める。すべての児童が自ら進んで学習できるわけではないため、そのような児童に寄り添ってサポートすることで、学ぼうとする意欲を高める。4年生の得点分布では点数の上位は他の学年と似ているが、下位の得点の児童が極端に少なく、学力の底上げができていたことがわかる。自己分析・自主学習・学力の底上げはどの学年も取り組んできたことであるが、これらをより強く意識することで、大阪市平均を超える本校児童の学力をさらに高めることができると考える。

また、今年度は感染対策のため、図書室の開放を自粛したが、学力経年調査の児童アンケートでは、いずれの学年も「読書が好き」と答える児童の割合が大阪市平均を上回った。今後は適切な感染対策をとりながら、図書室の開放など、児童の読書環境の整備を進めたい。

体力の向上

中期目標をすでに上回っているため、現状維持で満足するのではなく、その先を見据え「運動をよくしている」だけでなく、「運動したい」と思う児童の意欲を高める、「すききらいをしない」だけでなく、「食べたい」と思う児童の関心・意欲を高める、そのような働きかけ・手法はまだまだ探究する必要がある。ある学級での効果が見られた実践事例を共有することで、その手法が学校全体に広がり、児童のさらなる体力の向上を達成させたい。

評価基準	A：目標を上回って達成した。	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】 ＜全市共通目標＞ ①令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。 ②令和2年度の小学校経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。 経年調査 3年 93.0% 4年 96.9% 5年 97.9% 6年 85.4% 校内調査 86.6% ③令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ④令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童数の割合を前年度より減少させる。 ＜学校独自目標＞ ① 令和2年度の学校アンケートで「自分にはよいところがある」の項目で「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合を昨年度より向上させる。 （平成29年度 76.2% 平成30年度 78.7%）令和元年度 75.9% 令和2年度 73.9% ② 令和2年度の学校アンケートで「あいさつをしっかりとっている」の項目で、「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合を昨年度より向上させる。 （平成29年度 90.3% 平成30年度 87.4%）令和元年度 84.8% 令和2年度 85.7%	C

年度目標達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を知る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校で認知したいじめについては、100%解消に向けて取り組む。 指標 月1回の子どもサポート委員会、週1回の学年研修会を行い、全教職員で共通理解する。	B
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 きまりを守り、すすんであいさつができる子どもを育てる。 指標 - 児童の「きまりを守って正しく行動している態度」を認める声かけを、月目標などを活用して個々に具体的に行い、学校朝会や学級で評価する。 - 生活の中のさまざまな場面で使われるあいさつについて意識づけや評価を行い、あいさつができるようになってきた児童の割合を増やす。 - 学期に1回あいさつ週間を設け、児童の意識の向上を図る。 - 家庭や地域の方々にも啓発を行う。（地域活動協議会・ありがとうの会・懇談会・小中連携・学年だより・校長講話など）	B
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 人権尊重の精神をはぐくみ、自己有用感を感じることができる子どもを育てる。 指標 - 子どもたちの活動と自己有用感を結びつける声かけを行い、児童のいいところを共有する。 - 年間計画に基づいて道徳の時間を100%確保する。 - 地域のボランティアの方々との交流や社会見学、外国文化に触れる体験的な活動を工夫し	B

て実施する。 ・ピアサポートの（学級・学年・異学年での）実践を学期に1回以上行う。 ・ファミリー活動を充実させ、学期に1回以上のファミリー行事を行う。	
年度目標達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】【施策2 道徳心・社会性の育成】	
①月1回の子どもサポート委員会や職員会議では、課題のある児童や配慮の必要な児童について、全教職員で共通理解を行い、指導や支援に生かすことができた。いじめについても100%解消に向けて取り組んだ。特に子どもサポート委員会では、区役所とスクールカウンセラーによる支援にも発展し、いろいろな課題に向けた解決への糸口を得ることができている。 ②2学期から、「きまりを守って正しく行動している態度」を認める声かけを学校朝会や各学級で行ったことで、学校アンケートでもよい結果に結びついている。あいさつについては、あいさつ週間を始め、各場面での声かけにより、進んであいさつをする児童が増え、アンケート結果にも反映されている。今後はあいさつ週間や朝以外でも、あいさつへの児童の意識を向上させることが必要である。 ③コロナ禍によりオリエンテーリングは中止したが、ハッピーフェスティバルや屋外の集会は実施でき、異学年による交流やファミリーでのつながりを維持できた。学校アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の肯定的な回答が減少し、「わからない」が増えている。現状を見ると、自分の良さを実感できていないことが伺われる。	
後期に向けての改善点 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】【施策2 道徳心・社会性の育成】	
施策1 ・現在の取組を進めるとともに、より効率的に共通理解が図れるように、工夫していく。 ・今後、「いじめの解消」について、加害側の児童が繰り返さないための踏み込んだサポートについても、関係機関と連携を取りながら、考えていく必要があるのではないか。 施策2 ・「あいさつ」については、本年度は昨年度を上回ったものの、中期目標90.3%は下回っている。継続して「あいさつができています」状態を様々な場面で評価し、あいさつを「してよかった」「されてうれしかった」と感じる仕掛けや工夫を凝らした指導を考えていくことが必要である。 ・学校全体で「自分の良いところを見つける」「互いに良さを認めあえる」活動を行い、自分（のがんばり）を評価する機会を増やしたり、自分の達成感をスモールステップで頻繁に感じさせたりする仕掛けを工夫する。方法としては、ピアサポートや異学年交流を始め、様々な体験活動などを通して、各学年の児童の実態に応じた活動が有効である。	

大阪市立嶋野小学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価（目的別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した。	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 〈 全市共通目標 〉 ① 令和２年度の小学校学力経年調査における標準化得点を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 3年 100.4 点 4年 104.8 点 ↑（3年時 103.8 点）5年 103.4 点 ↑（4年時 103.2 点） 6年 100.1 点 ↓（103.0 点）（令和２年度の５・６年は５教科合計 それ以外は４教科合計） ② 令和２年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より <u>1</u> ポイント減少させる。 3年 18.6% 4年 2.0% <u>6.4 ポイント減少</u>（3年時 8.4%） 5年 7.8% <u>2.3 ポイント減少</u>（4年時 10.1%） 6年 12.4% <u>3.6 ポイント増加</u>（5年時 8.8%） ③ 令和２年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より <u>1</u> ポイント増加させる。 3年 27.8% 4年 47.5% <u>3.3 ポイント増加</u>（3年時 44.2%） 5年 38.9% <u>0.7 ポイント増加</u>（4年時 38.2%） 6年 20.2% <u>19.4 ポイント減少</u>（5年時 39.6%） ④ 令和２年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。 3年 80.0% 4年 79.8% <u>2.5 ポイント増加</u>（3年時 77.3%） 5年 69.3% <u>5.2 ポイント減少</u>（4年時 74.5%） 6年 71.9% <u>7.0 ポイント減少</u>（5年時 78.9%） ⑤ 体力向上に向けて、かけ足週間や、かけ足大会の取り組みを行い、令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、20mシャトルランの記録を大阪市平均・全国平均を <u>1</u> ポイント以上上回るようにする。 （※体力テスト中止のため、かけあし週間後に調査該当学年で 20m シャトルランを計測し、大阪市平均・全国平均のそれぞれ過去 3 年間の平均値と比較する。） 男子 51.4（過去 3 年平均 大阪市 49.17 全国 51.57） 女子 44.1（過去 3 年平均 大阪市 39.28 全国 41.42）	B

＜学校独自目標＞	
① 令和２年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、 80%以上に維持する。 (令和元年度 89.4%・平成 30 年度 83.1%) 令和２年度 90.2%	
② 令和２年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、 75%以上に維持する。 (令和元年度 82.7%・平成 30 年度 76.9%) 令和２年度 81.9%	
年度目標達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 子どもたちが学びの充実感を味わえるように、年間指導計画の中で体験的な活動を効果的に位置づける。	B
指標 ・各学年、年間２回以上体験的な活動を行う。	
取組内容②【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 図書室の環境整備や図書開放の時間の充実など、児童の読書数を増やすための取り組みをすすめる。	B
指標 ・月～金曜日 15 分休み、火曜日終日、金曜日昼休みに図書開放を行う。 ・図書だよりを定期的に発行し、学級での図書指導に活用する。	
取組内容③【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 ①学年間の系統性を確認し、学習課題を明確にする。②“主体的な学び”につながるような課題解決の方法等を教材研究する。③研修会を実施する。	B
指標 ・授業研究を年３回、研修会（メンター研修を含む）を定期的に実施する。 ・１人１授業の参観体制を整えて、定期的に実施する。	
年度目標達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析	
【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】	
①・コロナ禍で外に出ることに制限があったため、来校していただく出前授業や動画を活用するなど工夫して体験的活動を取り入れてきた。	
②・図書だよりを定期的に発行したことで、色々な本に興味をもつことができ、読書への意欲が高まった。 ・図書館開放が実施できない状況であったが、各学年の図書の本の貸し出し数は昨年度より増加している。	
③・コロナ禍でできる範囲の研究授業を行った。teams を活用し、研究討議会も行い、３回の研究授業も実施できた。 ・１人１授業の参観体制を充実させるため、体制を整え、コミュニケーションカードを活用して授業者と参観者の交流を積極的に行った。	
後期に向けての改善点	
【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】	
①・体験的な活動を有効活用できたかどうか、次年度に向けて計画を練り直す。 ・今年度行った体験的な活動を一覧化する。 ・コロナの状況の中でもできる体験的な活動を検討していく。	

②・図書館開放するために、曜日ごとに学年を決めて行うなどの工夫を検討する。 ・読書数増加に向けた取り組みをさらに考え、継続していく。 ・貸し出し冊数などのデータの共有を図り、活用していく。 ③・1人1授業のさらなる整備を図る。年度当初からの計画的な実施を進めていき、より多くの人に参観してもらい、交流し、授業力向上につなげていく。 ・研修会に関しても、様々な内容を計画的に実施して充実させていく。 ・中期目標の「算数の授業は好きですか？よくわかりますか？」「国語の授業は好きですか？よくわかりますか？」の項目で「そう思う・どちらかと言えばそう思う」割合は順調で全国平均を上回っている。さらに上げていくためにも、授業づくりの工夫を図っていく。	
取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育科の時間や休み時間に、子どもたちが運動することの楽しさを味わい意欲的に運動することにより、体力の向上につなげるようにする。	A
指標 ・体力をつけることが将来の健康維持につながることを理解させ、なかよしタイム等に外遊びをするように働きかける。 ・令和2年度の学校アンケートの「日ごろ、運動をよくしている」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を75%以上に維持する。	
取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 「元気アップ週間」を実施して、早寝・早起きの意識が高まるようにする。	B
指標 ・学期に一度、「元気アップ週間」を設定し、早く寝ることを意識できるようにする。朝会での校長講話などは、引き続き取り組む。 ・「ほけんだより」に「元気アップ週間」の項目に関連する内容を学期に1回は掲載し、学級での指導に活用する。 ・児童が「ほけんだより」を読む機会を増やすために、各学級教室と保健室前に掲示する。また、学級配付時に、おたよりの内容についてもふれる。	
取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 すききらいせず食べる習慣が身につくようにはたらきかける。	A
指標 ・「きゅうしょくだより」や「きゅうしょくカレンダー」を活用し、給食指導を行う。（給食委員会の校内放送、教室での「きゅうしょくカレンダー」の音読など） ・食に関する指導の全体計画に沿って、栄養教諭による食の指導を各学年、年間2回以上行い、学級での栄養指導に活用する。 ・残食を減らすため、13時からの「もぐもぐタイム」を全校で取り組む。 ・年間2回以上、行事献立などのときに、学級担任が授業用パソコンを使い、給食指導中に、伝統行事と食の関連などについて講話する。 ・児童が「きゅうしょくだより」を読む機会を増やすために、各学級教室とランチルーム前に掲示する。また、学級配付時に、おたよりの内容についてもふれる。	
年度目標達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】	
④・体育科で、学習カードを取り入れることで、自分の目標をたて、振り返りを行うことができ、めあてをもって取り組めた。 ・なかよしタイムは外遊びをするように声をかけ、みんな遊びを活用して外へ行く機会を増やした。また、運動委員会の取り組み（大なわ大会など）や異学年の交流は、多くの子どもたちの外遊びへのきっかけにもなり、運動への意欲が高まった。 ・上記の取り組みが要因となり、令和2年度の学校アンケートの「日ごろ、運動をよくしている」	

の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が85.6%となったと考えられる。

- ⑤・7月、11月、2月に元気アップ週間を実施した。元気アップ週間の時には、「ほけんだより」で早寝早起きやゲーム脳に関するテーマを掲載したり、朝会で学校長が講話をしたりすることで、児童へ意識づけにもつながった。また、元気アップがんばり表の保護者からの一言の欄を書いてもらうことで、子どもにがんばってほしいところを確認できた。
- ・今年度より、カラーの「ほけんだより」を教室に掲示し、児童に配付する時には内容にふれることにより、学級での指導に活用できた。
- ⑥・「きゅうしょくカレンダー」や各学級年間2回の栄養教諭による栄養指導、授業用パソコンを使用した行事献立などの資料を8回作成するなどの取り組みにより、野菜や従来残食が多い献立（骨のある魚やレーズンパンなど）の給食を残さずに食べようとする意識が高まり、1月頃より「残食がゼロのおかず」が増えてきた。
- ・今年度はコロナ対策で、会話を控えていることもあり、13時からのもぐもぐタイムの定着はしてきた。
 - ・今年度より、カラーの「きゅうしょくだより」を教室に掲示し、児童に配付する時には内容にふれることにより、学級での指導に活用できた。

次年度への改善点

【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ④・使用した体育の学習カードを蓄積していく。
- ・学級遊びの時間以外にも外遊びができるように声かけをしたり、異学年との遊びの機会を設けたりすることで、継続して児童が外遊びを好きになるきっかけをつくる。
- ※中期目標（令和3年度の学校アンケートで「日ごろ、運動をよくしている」の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」割合を、80%以上にする。）の数値（今年度85.6%）を来年度も維持するために、外遊びの機会の確保や駆け足週間などの取り組みの継続性が必要である。
- ※来年度の学校アンケートに「運動することが好きかどうか」についての項目を追加し、再来年の新たな中期目標を設定する際の基準となる現状を把握する。
- ⑤・元気アップ週間の時期を再考する。
- ・ほけんだよりや元気アップがんばり表の保護者からの一言など、家庭との継続的な連携を大切にしていく。
- ※中期目標（令和3年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合の75%以上を維持する。）の数値（今年度は81.9%）を来年度も維持できるように、今年度まで行ってきた効果があった取り組みを継続して実施する。
- ⑥・行事献立やお箸の持ち方などの給食指導に関わる内容の授業用パソコンを使った資料づくりの継続と蓄積を行い、動画を流すだけでなく、資料について考える機会も設ける。
- ※中期目標（令和3年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合を、80%以上に維持する。）の数値（今年度は90.2%）を来年度も維持できるように、今年度まで行ってきた効果があった取り組みを継続して実施する。